

第2章 子ども・子育てを取り巻く現状

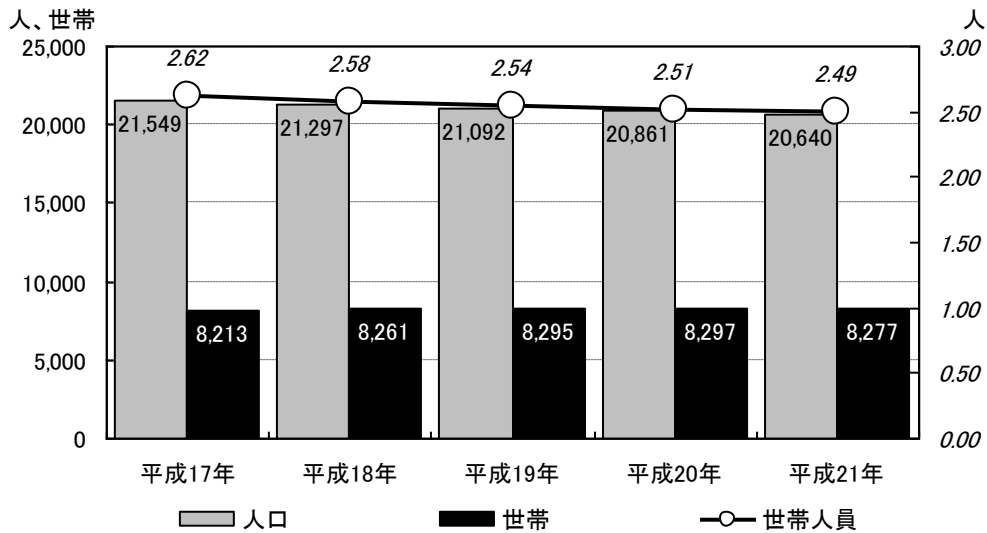
1. 少子化の動向

(1) 人口、世帯数の推移

■人口・世帯数の推移

単位：人、世帯、%

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
人 口	21,549	21,297	21,092	20,861	20,640
世 帯	8,213	8,261	8,295	8,297	8,277
世 帯 人 員	2.62	2.58	2.54	2.51	2.49
人 口 伸 び 率	100.0	98.8	99.0	98.9	98.9
世 帯 伸 び 率	100.0	100.6	100.4	100.0	99.8



資料：住民基本台帳（北広島町）（各年3月末）

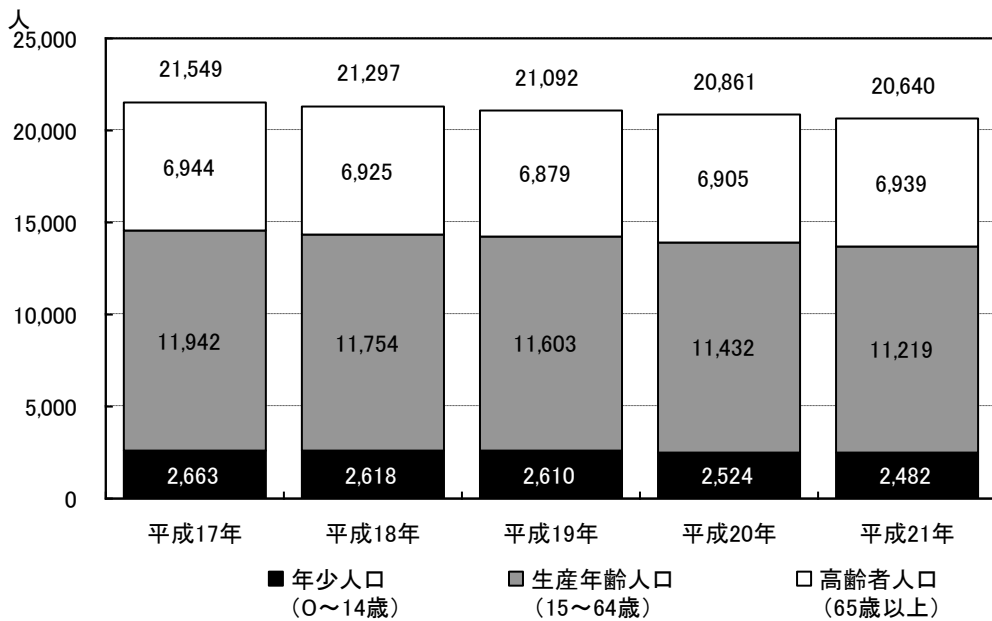
北広島町の人口は、平成21年3月末現在で20,640人、世帯数は8,277世帯となっています。

1世帯あたりの人口を示す「世帯人員」は平成17年3月末の2.62人から2.49人へと緩やかに小家族化傾向にあります。これは、人口が減少している一方で、世帯数が増加していることが要因となっています。

■人口3区分の推移

単位:人

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年
人 口	21,549	21,297	21,092	20,861	20,640
年 少 人 口 (0~14歳)	2,663	2,618	2,610	2,524	2,482
生 産 年 齢 人 口 (15~64歳)	11,942	11,754	11,603	11,432	11,219
高 齢 者 人 口 (65歳以上)	6,944	6,925	6,879	6,905	6,939



資料：住民基本台帳（北広島町）（各年3月末）

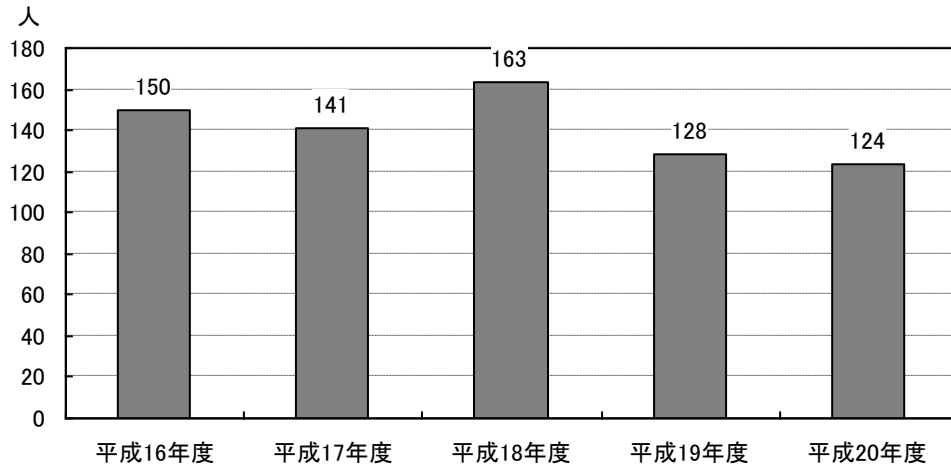
人口の減少とともに、年少人口も減少しています。一方で、高齢者人口は増加しており、全体として少子高齢化が進んでいます。

(2) 出生数の推移

■出生数の推移

単位:人

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
出生数	150	141	163	128	124



資料: 住民基本台帳(北広島町)

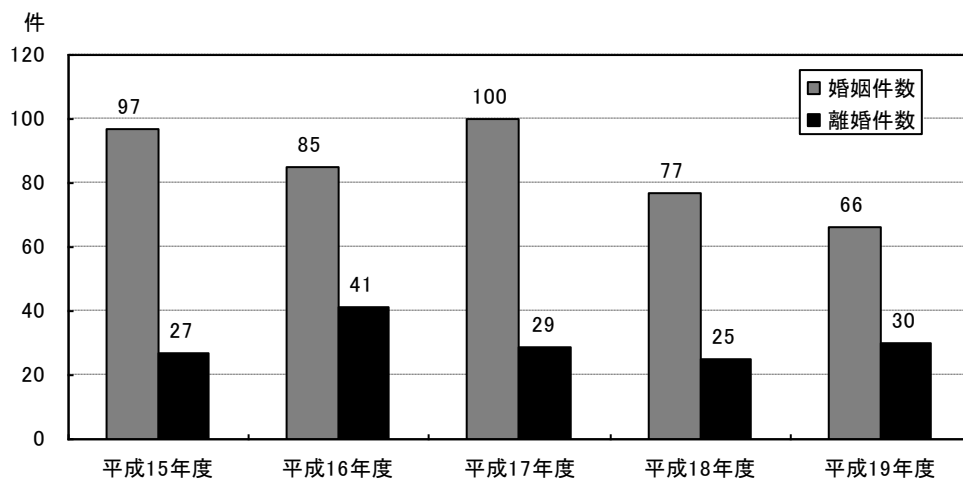
出生数は、平成17年度にやや減少して平成18年度で増加に転じていますが、平成19年度以降は減少傾向で推移しています。

(3) 婚姻の状況

■婚姻件数の推移

単位:件

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
婚姻件数	97	85	100	77	66
離婚件数	27	41	29	25	30



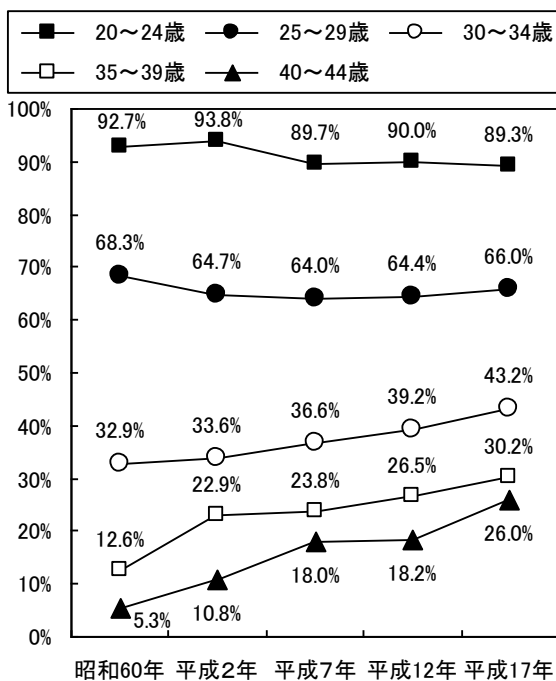
資料: 人口動態統計

婚姻数・離婚数をみると、婚姻数は直近4年間では90件前後で推移していますが、平成19年度には66件と減少しています。

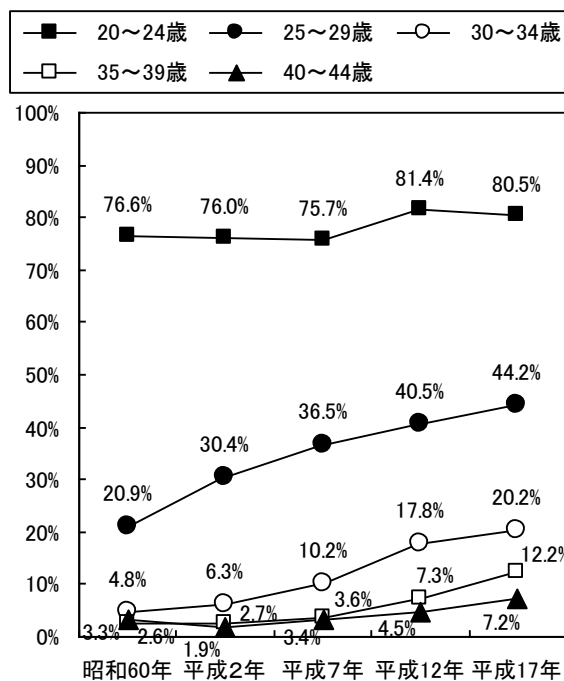
一方の離婚数は、最近では30件前後の推移が続いています。

■未婚率の推移

男性



女性



(平成12年以前は旧4町の合計)
資料：国勢調査

未婚率をみると、男性、女性ともほとんどの年齢層において未婚率の割合が高くなる傾向にあります。特に女性の25～29歳、30～34歳において急増しており、晩婚化の傾向が著しくなっています。

(4) 学校児童・生徒数の推移

■学校児童・生徒数の推移

単位:人

			平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
小学校	総 数	総数	1,082	1,070	1,058	1,033	1,033
		男	560	547	537	523	540
		女	522	523	521	510	493
	1 学 年	総数	178	172	180	168	176
		男	102	89	90	79	101
		女	76	83	90	89	75
	2 学 年	総数	174	174	176	181	163
		男	87	101	90	90	78
		女	87	73	86	91	85
	3 学 年	総数	170	172	171	175	181
		男	87	84	98	89	91
		女	83	88	73	86	90
	4 学 年	総数	195	168	171	171	175
		男	92	88	84	98	90
		女	103	80	87	73	85
	5 学 年	総数	191	195	170	170	169
		男	96	90	87	83	97
		女	95	105	83	87	72
6 学 年	総数	174	189	190	168	169	
	男	96	95	88	84	83	
	女	78	94	102	84	86	
中学校	総 数	総数	680	669	676	655	644
		男	354	360	359	337	328
		女	326	309	317	318	316
	1 学 年	総数	240	209	227	221	199
		男	126	110	121	104	104
		女	114	99	106	117	95
	2 学 年	総数	220	240	208	226	221
		男	124	126	111	122	104
		女	96	114	97	104	117
	3 学 年	総数	220	220	241	208	224
		男	104	124	127	111	120
		女	116	96	114	97	104

資料：広島県学校基本調査

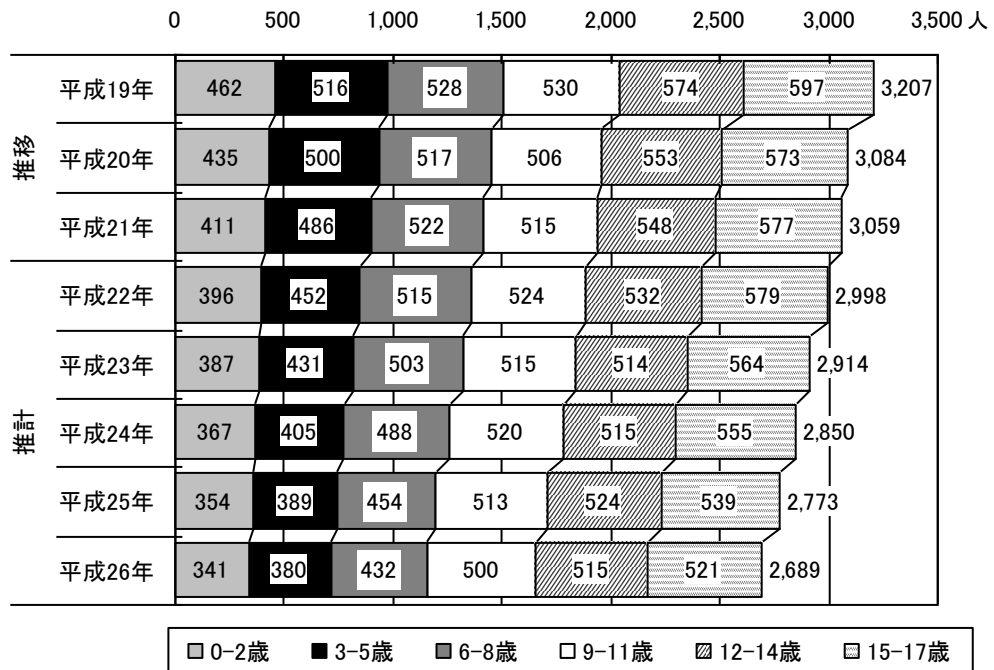
町内の小・中学校に通う児童・生徒数は減少傾向となっています。

(5) 将来児童数推計

■ 18歳未満児童人口の推移と推計

単位:人

	推移			推計				
	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
0～2歳	462	435	411	396	387	367	354	341
3～5歳	516	500	486	452	431	405	389	380
6～8歳	528	517	522	515	503	488	454	432
9～11歳	530	506	515	524	515	520	513	500
12～14歳	574	553	548	532	514	515	524	515
15～17歳	597	573	577	579	564	555	539	521
合計	3,207	3,084	3,059	2,998	2,914	2,850	2,773	2,689



資料: 住民基本台帳よりコーホート要因法により推計

本町の18歳未満児童人口は減少傾向にあり、今後もこの傾向は続くと推計されます。

2. 家族や地域の状況

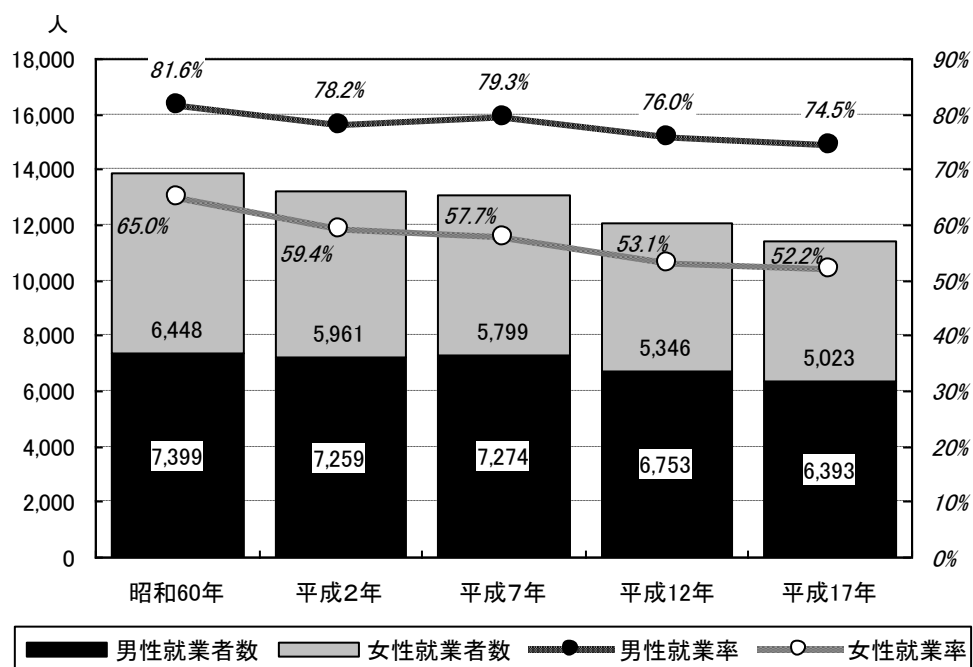
(1) 就労の状況（女性の就業状況等）

■ 就業者数、就業率の推移（15歳以上）

単位：人、%

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年
男性就業者数	7,399	7,259	7,274	6,753	6,393
女性就業者数	6,448	5,961	5,799	5,346	5,023
男性就業率	81.6	78.2	79.3	76.0	74.5
女性就業率	65.0	59.4	57.7	53.1	52.2

就労の状況は国勢調査によるもので、調査期間に収入を伴う仕事を少しでもした人で、自営業（農業や店の仕事など）の手伝いや内職・パートタイムも含めます。



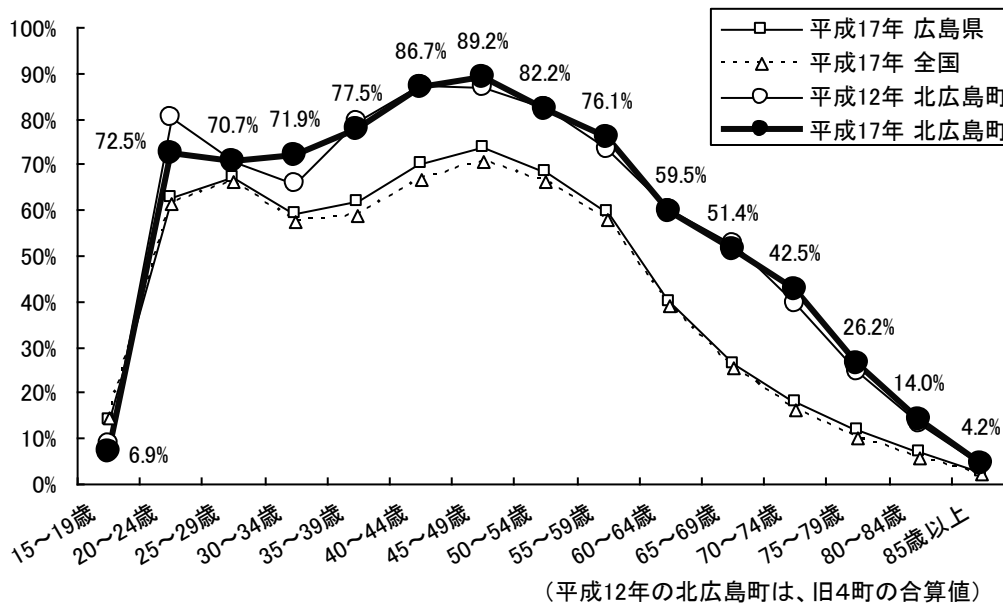
（平成12年以前は旧4町の合計値）

資料：国勢調査

■女性の就業状況

単位：％

	平成12年	平成17年		
	北広島町(旧町計)	北広島町	広島県	全国
15～19歳	8.7	6.9	14.1	14.5
20～24歳	80.3	72.5	62.8	61.4
25～29歳	70.5	70.7	67.3	66.1
30～34歳	65.7	71.9	59.1	57.5
35～39歳	79.3	77.5	62.0	58.9
40～44歳	87.2	86.7	70.2	66.7
45～49歳	86.9	89.2	73.7	70.4
50～54歳	82.6	82.2	68.6	66.2
55～59歳	73.1	76.1	59.6	57.9
60～64歳	60.2	59.5	39.9	39.1
65～69歳	52.4	51.4	26.5	25.4
70～74歳	39.3	42.5	17.8	16.1
75～79歳	24.4	26.2	12.0	10.3
80～84歳	13.2	14.0	7.0	5.5
85歳以上	4.2	4.2	2.6	2.1



資料：国勢調査

本町の女性の就業割合は、全国、広島県と比較して高くなっています。また、平成12年と比較し、平成17年では30～34歳の離職率が改善されていますが、20～24歳において就業率が下がっています。

3. 子育て支援サービスの提供と利用の状況

(1) 保育所の状況

■保育所利用状況

単位：人

地域	保育所名	公私区分	入所定員	保育所利用人数 (10月1日現在)				
				平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
芸北	八幡こども園 (3歳以上)		10	-	-	6	6	5
	芸北つくし保育園	公	40	42	38	50	39	31
	さつきヶ丘保育所	私	30	24	29	34	28	27
	美雲保育所	公	30	9	6	3	(休園)	(休園)
大朝	新庄保育所	公	60	49	50	45	36	36
	大朝保育所	私	60	69	65	68	63	63
千代田	川戸保育所	公	20	16	21	24	21	23
	南方保育所	公	30	18	15	17	20	20
	本地保育所	公	80	74	68	63	63	62
	蔵迫保育所	私	60	57	60	60	70	70
	ルンビニ園保育所	私	120	131	128	130	129	122
	壬生保育所	私	100	83	88	106	113	106
豊平	吉坂保育所	私	45	56	53	49	49	43
	都谷保育所	私	20	25	28	29	27	26
	双葉保育園	私	20	23	24	23	22	23
合	計		725	676	673	701	686	657

■ は平成21年度の定員充足率が100%以上

■特別保育等の実施状況

単位：か所

事業名	平成21年度実施か所数
延長保育	7
緊急一時保育	12
障害児保育	13
世代間交流	13
異年齢児交流	14
育児講座	13
育児相談	14

■病児・病後児保育の実施状況

単位：人

区分	平成18年	平成19年度	平成20年度	平成21年度
病児保育	-	-	-	10/1～開始
病後児保育	16	27	42	(10月まで) 50

平成18年9月1日開始(年間利用者数)

(2) 子育て支援センター

■子育て支援センターの設置状況(平成21年度)

名 称	実施場所	事業内容
芸北子育て支援センター	芸北つくし保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放 ・ふれあい相談・育児相談 ・芸北ママ友クラブ ・レンタル子育てビデオ ・一時保育
大朝子育て支援センター	大朝保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・園庭開放 ・育児相談 ・ためになる講座 ・「ちょっとひといき！」 ・おたのしみ会
千代田子育て支援センター	ルンビニ園保育所	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやかランド(園庭開放) ・あそびの広場「すくすく」 ・子育て相談「もしもし、あのね」 ・育児不安等についての相談・指導・訪問
豊平子育て支援センター	双葉保育園	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てルンルン(園庭開放) ・子育て通信の発行(年4回) ・育児相談(月～木曜日) ・なかよし保育(緊急一時保育) ・ふたご・みつごサークル(さくらんぼ) ・はなのワンパク子といきいきママの会

(3) 放課後児童クラブ

■放課後児童クラブの利用状況

単位:人

地域	名称	定員	実施場所	利用人数		
				平成19年度	平成20年度	平成21年度
芸北	芸北放課後児童クラブ	-	さつきヶ丘保育所 旧芸北幼稚園舎	-	17	28
	大朝放課後児童クラブ	55	新庄集落センター	53	64	55
千代田	千代田放課後児童クラブ	70	八重東内小学校	81	88	70
	壬生放課後児童クラブ	55	壬生小学校	36	48	55
	八重東放課後児童クラブ	55	八重東内小学校	47	46	46
	本地放課後児童クラブ	45	本地総合センター	-	-	33
豊平	都谷放課後児童クラブ	30	都谷保育所	29	28	17
	双葉放課後児童クラブ	30	双葉保育園	28	29	21
	みなみ放課後児童クラブ	40	豊平教育集会所	46	50	47

芸北放課後児童クラブは、小学校の夏季休業中のみ試行中

4. ニーズ調査の結果概要

(1) 調査の概要

調査地域 : 北広島町
調査対象者 : 平成21年1月1日現在、北広島町に在住する就学前・小学生の保護者全世帯
対象数 : 就学前児童725人 小学校児童726人
調査期間 : 平成21年2月10日～平成21年2月24日まで
調査方法 : 調査票による本人記入方式（本人が記入できない場合は家族）
保育機関・小学校いずれの機関にも属していない対象者は、郵送配布・郵送回収による郵送調査方法、その他は保育機関・小学校を通じて配布回収を行った。

(2) 回収結果

調査票	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
就学前児童用調査票	725票	499票	68.8%
小学校児童用調査票	726票	527票	72.6%
合計	1,451票	1,026票	70.7%

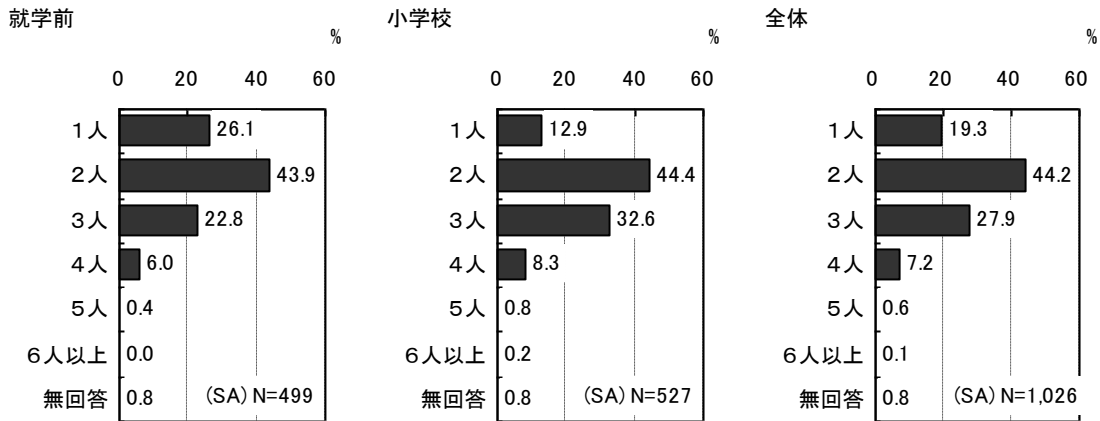
(3) 結果の見方

- 回答結果は、有効サンプル数に対して、それぞれの割合を示している。小数第2位を四捨五入しているため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合がある。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映している。
- 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示している。そのため、合計が100.0%を超える場合がある。
- 図表中において、「無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が著しく困難なものである。
- グラフおよび表のN数は有効サンプル数（集計対象者総数）、（SA）は単数回答の設問、（MA）は複数回答の設問、（NA）は数量回答による設問を表している。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合がある。

(4) 調査結果

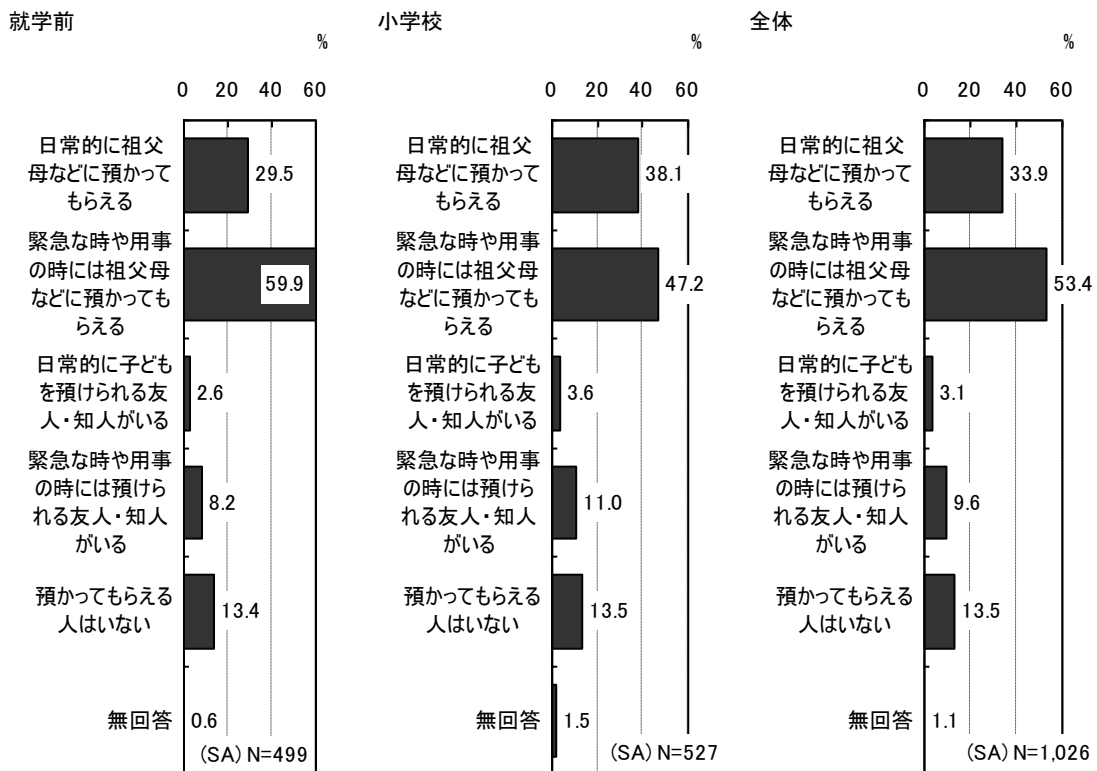
①子どもの数

子どもの人数についてみると、就学前、小学校ともに「2人」が4割強と最も多く、次いで、就学前では「1人」が26.1%、小学校では「3人」が32.6%となっている。全体で見ると「2人」が44.2%で最も高く、次いで「3人」、「1人」となっている。



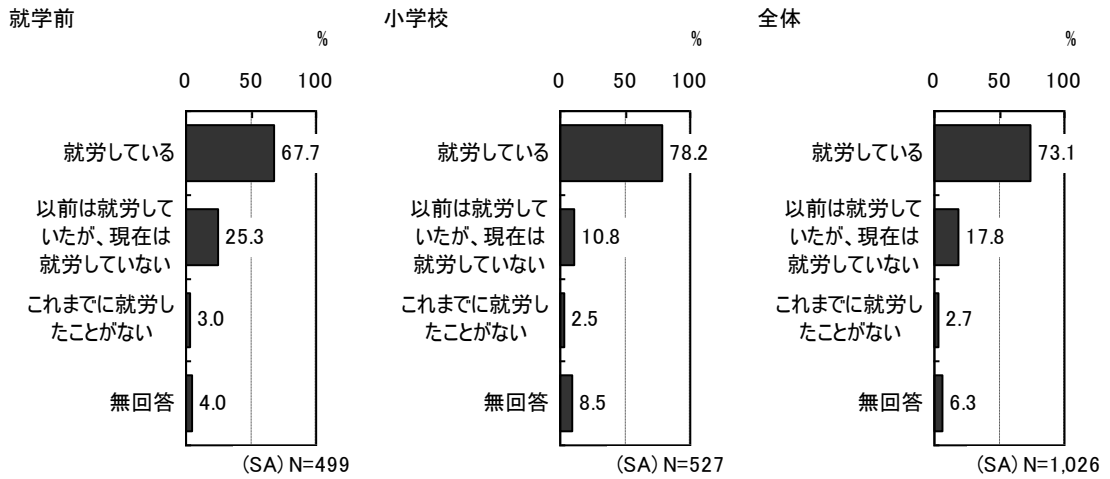
②日ごろあるいは緊急時に、お子さんを預かってもらえる人

子どもを預かってもらえる人はいるかについてみると、就学前、小学校ともに「緊急な時や用事の時には祖父母などに預かってもらえる」が最も多く、次いで「日常的に祖父母などに預かってもらえる」となっている。全体でも同様の傾向となっている。



③母親の就労状況

母親の就労状況についてみると、「就労している」が就学前では67.7%、小学校では78.2%、全体では73.1%となっている。(就労にはフルタイム、パート・アルバイト等、育児休業中等を含む。)



④生活の中で、「仕事時間」と「家事(育児)・プライベートの生活時間」の優先度

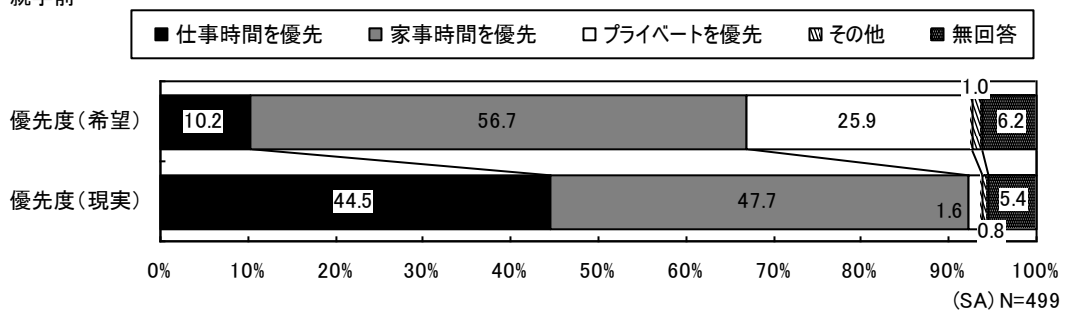
優先度（希望）についてみると、全体的に「家事時間を優先」が5割強と最も多く、約半数を占めている。

優先度（現実）では、就学前では「家事時間を優先」が47.7%と最も多く、次いで、「仕事時間を優先」が44.5%となっている。

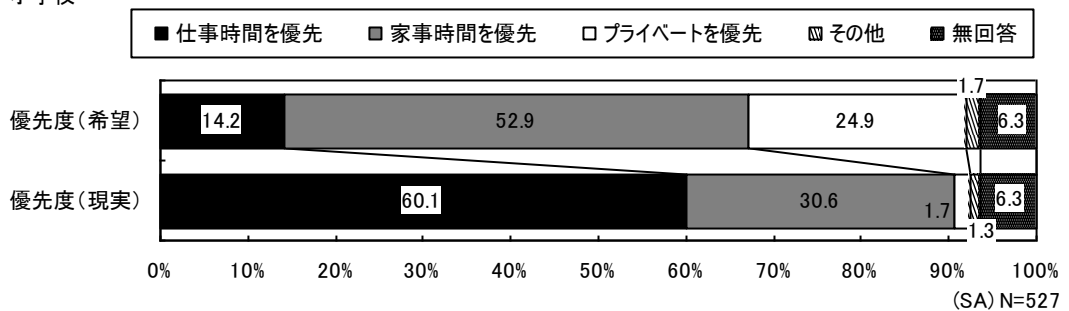
小学校では「仕事時間を優先」が60.1%と最も多く、次いで、「家事時間を優先」が30.6%となっている。

全体で見ると「仕事時間を優先」が52.5%と約半数を占め、次いで、「家事時間を優先」が38.9%となっている。

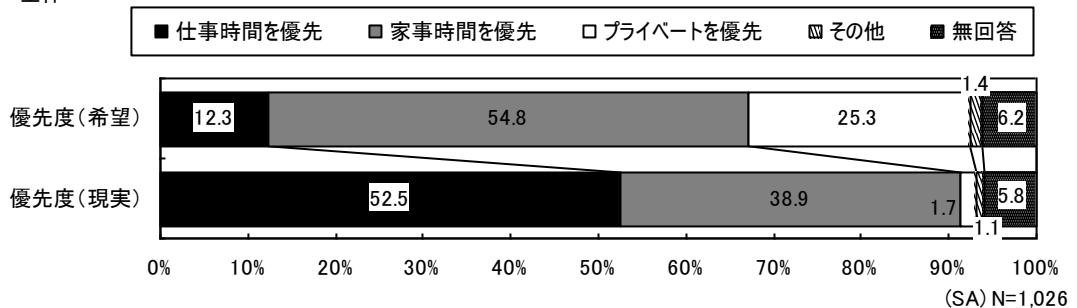
就学前



小学校



全体



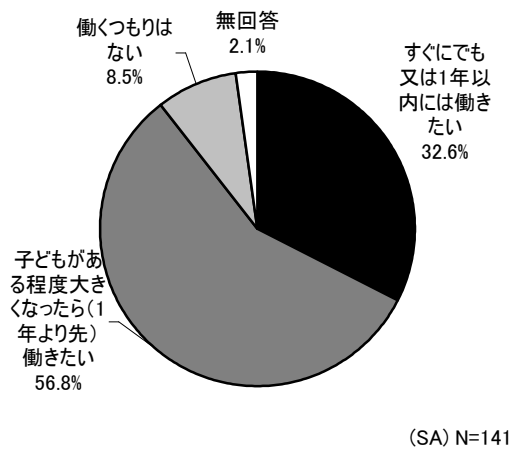
⑤母親の就労希望

現在就労していない、または就労したことがない母親の就労希望についてみると、就学前では「子どもがある程度大きくなったら（1年より先）働きたい」が56.8%と最も多く、次いで、「すぐにでも又は1年以内には働きたい」が32.6%となっている。

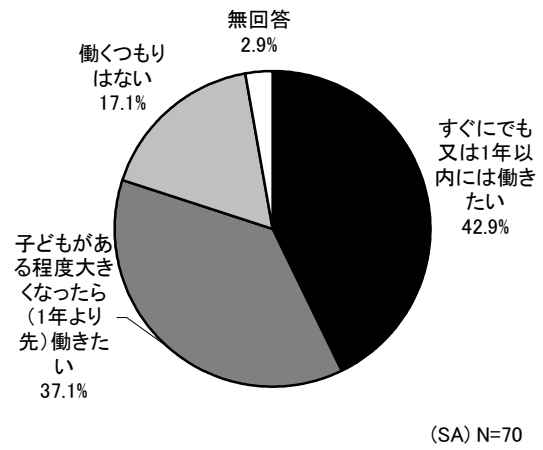
小学校では「すぐにでも又は1年以内には働きたい」が42.9%と最も多く、次いで、「子どもがある程度大きくなったら（1年より先）働きたい」が37.1%となっている。

全体では86.2%が就労を希望している結果となっている。

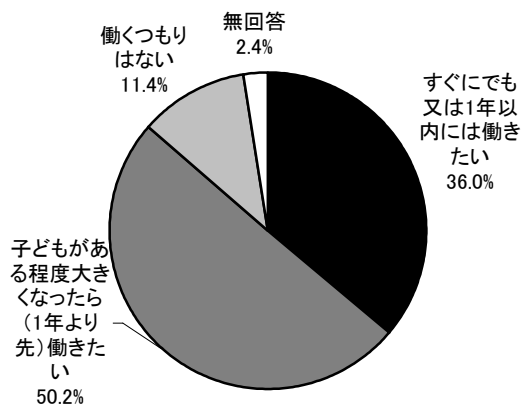
就学前



小学校



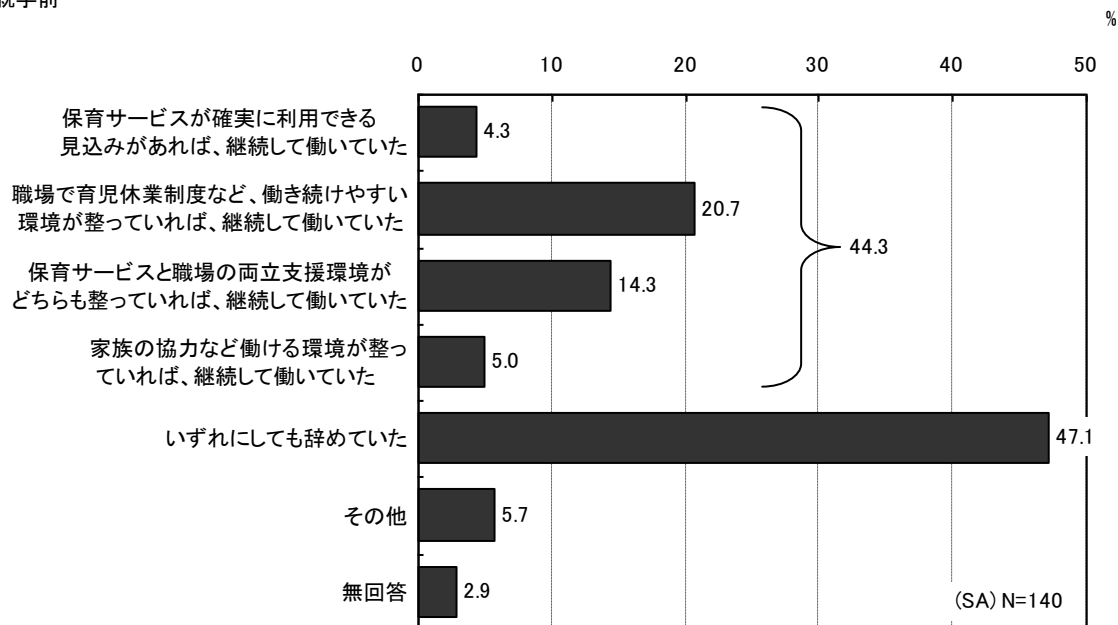
全体



⑥保育サービス(保育所・認定こども園・事業所内保育施設など)の利用状況

保育サービスや環境が整っていたら、働き続けたかについてみると、「いずれにしても辞めていた」が47.1%と最も多いが、何らかのサービスや制度・支援の利用により「就労を継続していた」の合計は44.3%で拮抗している。

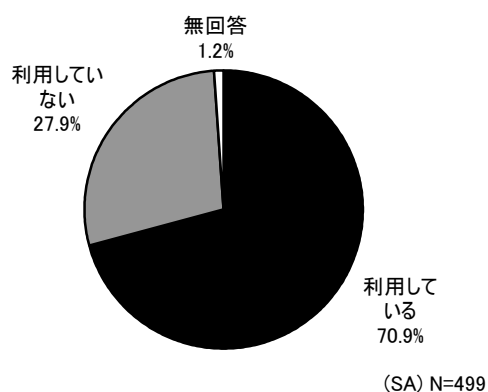
就学前



⑦保育サービス(保育所・認定こども園・事業所内保育施設など)の利用状況

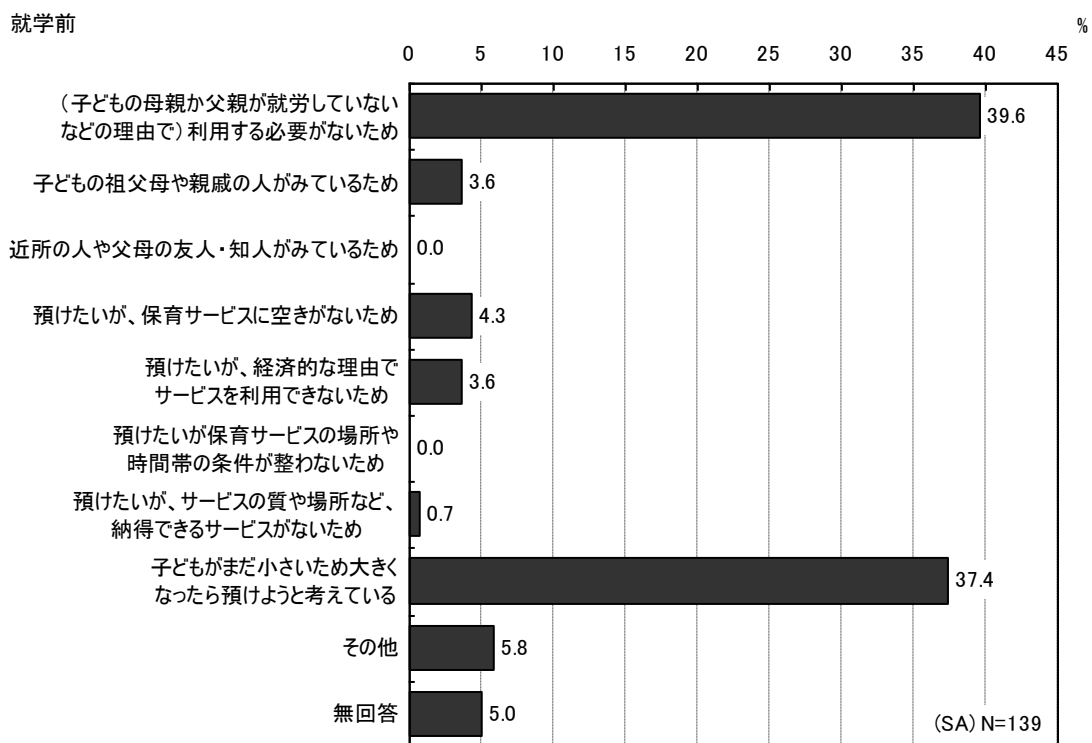
保育サービスの利用状況についてみると、「利用している」と回答した人は、約7割を占めている。

就学前



⑧保育サービスを利用していない「最も大きな理由」

保育サービスを利用していない人の理由についてみると、「(子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がないため」が39.6%と最も多く、次いで、「子どもがまだ小さいため大きくなったら預けようと考えている」が37.4%となっている。

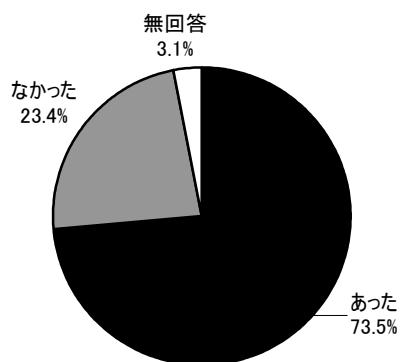


⑨この1年間に、お子さんが病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったこと、学校を休んだことがあるか

この1年間に、病気やケガで通常の保育サービスが利用できなかったこと、学校を休んだことについてみると、「あった」と回答した人は、就学前では73.5%、小学校では59.4%と、小学校より就学前の方が多くなっている。

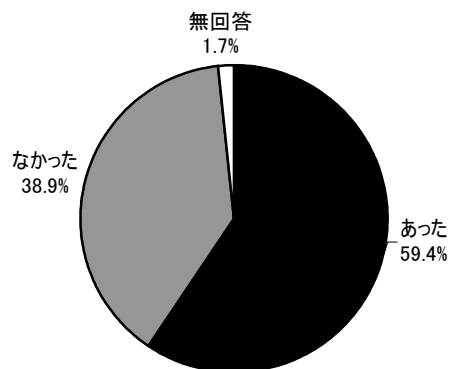
全体では65.0%と約3分の2が「あった」と回答している。

就学前



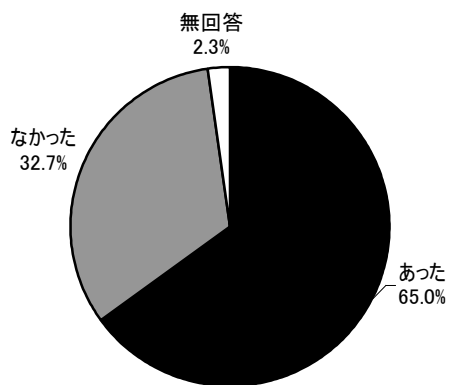
(SA) N=354

小学校



(SA) N=527

全体

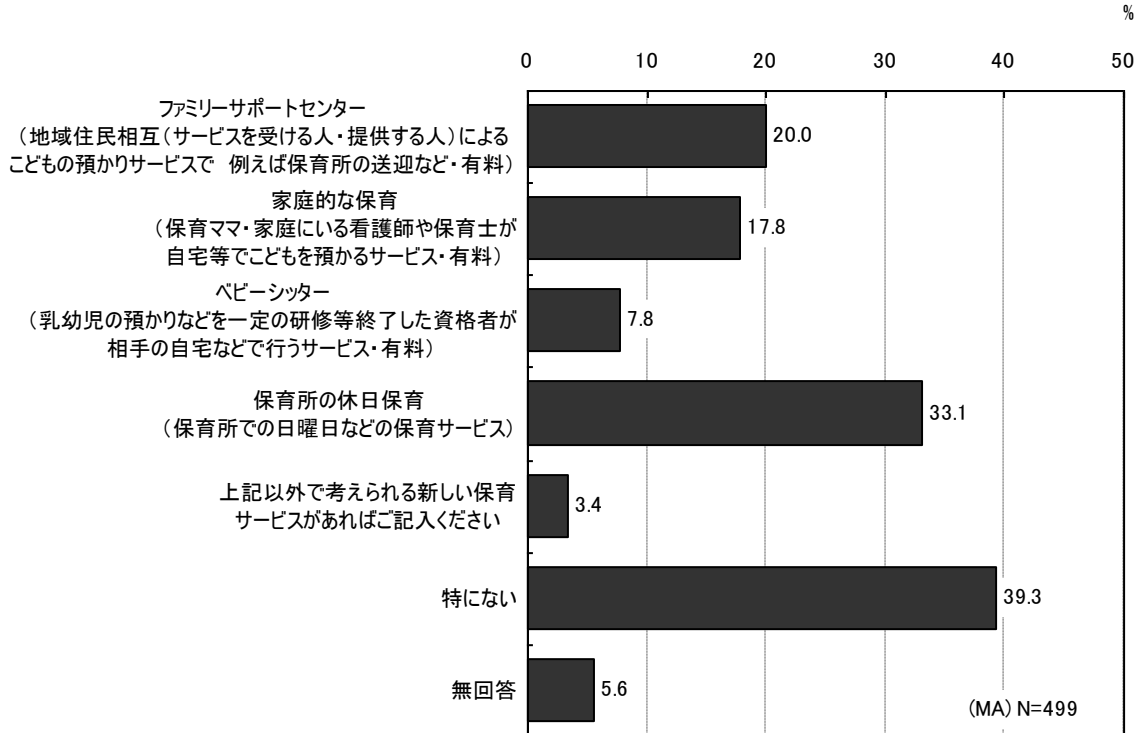


(SA) N=881

⑩どんな保育サービスを希望しているか

希望する保育サービスについてみると、「特にない」が39.3%と最も多く、次いで、「保育所の休日保育(保育所での日曜日などの保育サービス)」が33.1%となっている。

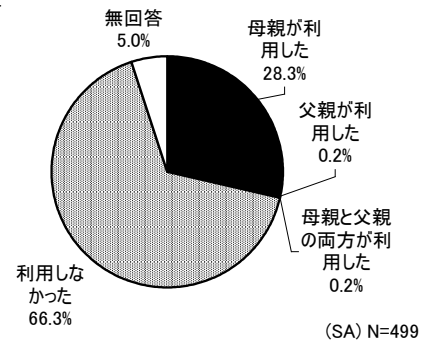
就学前



⑪育児休業制度の利用状況

育児休業制度の利用状況についてみると、「利用しなかった」が66.3%と最も多く、次いで、「母親が利用した」が28.3%となっている。

就学前



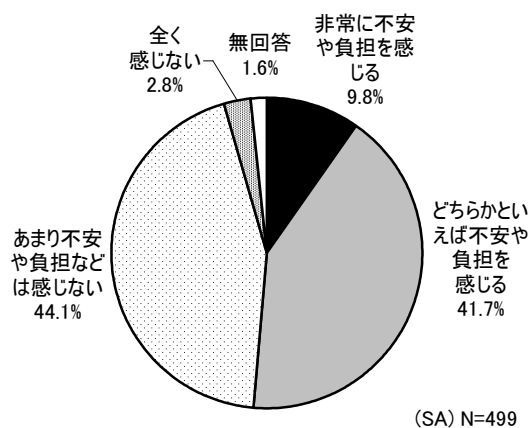
⑫子育てに関して不安や負担などを感じているか

子育てに関しての不安や負担についてみると、就学前、小学校ともに「あまり不安や負担などは感じない」が最も多く、就学前では44.1%、小学校では44.0%となっている。

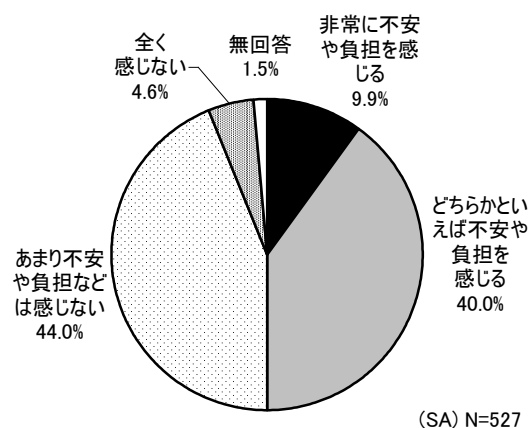
次いで、ともに「どちらかといえば不安や負担を感じる」が就学前では41.7%、小学校では40.0%となっている。

全体でも『負担を感じる』とした回答は約半数であり、『感じない』とする回答と拮抗している。

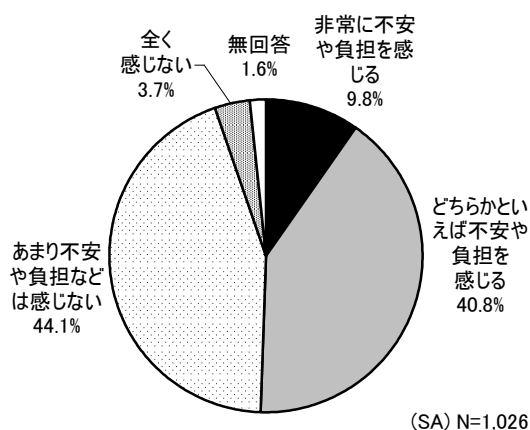
就学前



小学校



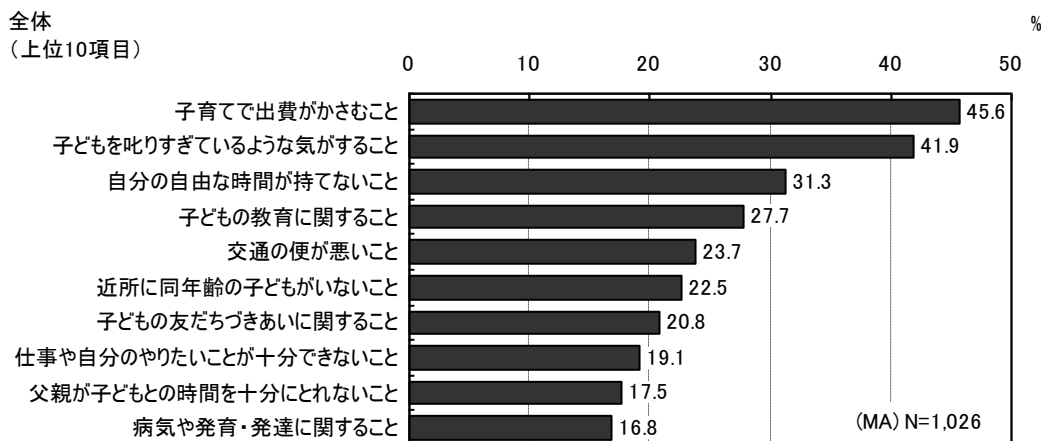
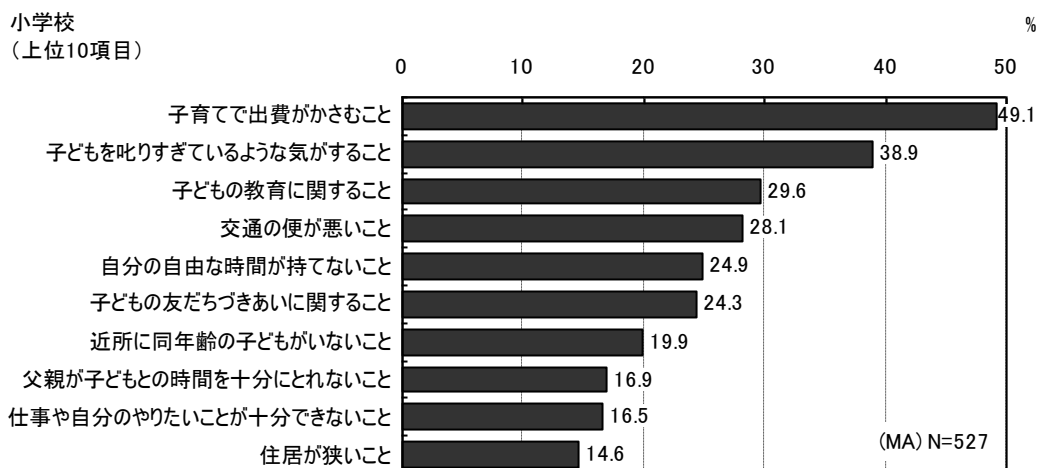
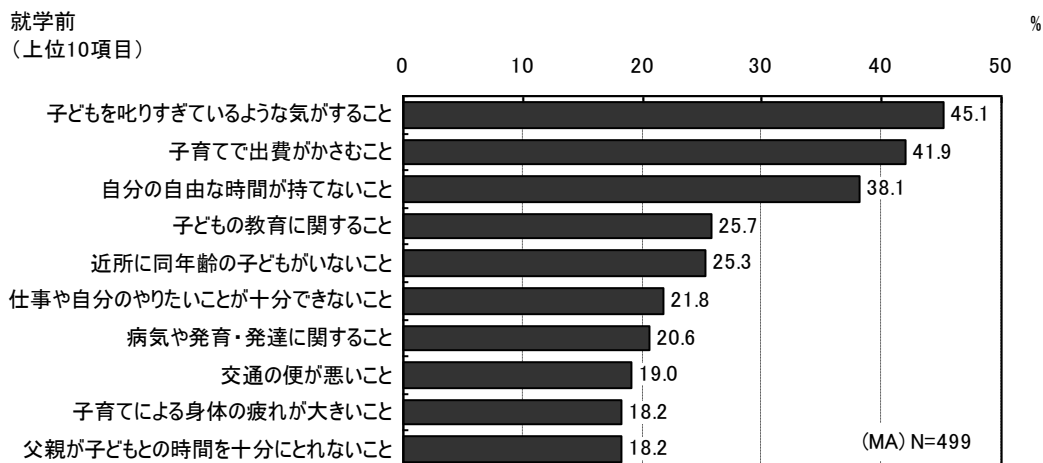
全体



⑬特に不安や負担に思っていることや悩んでいること

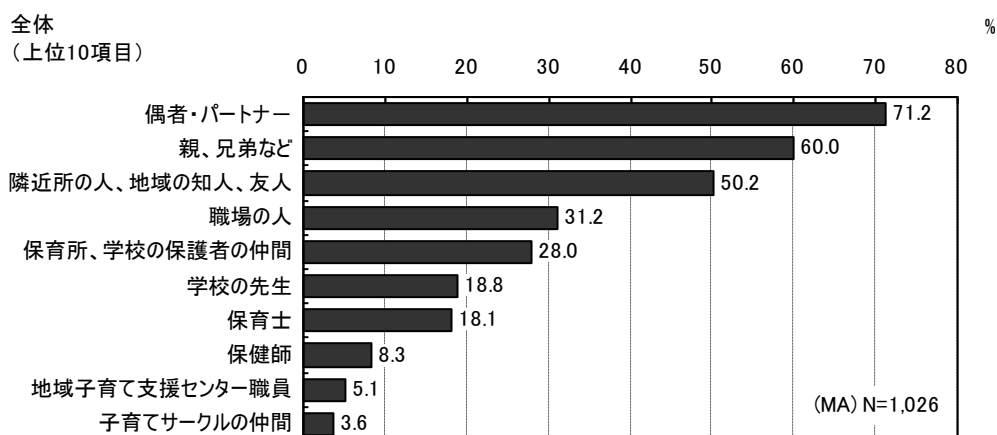
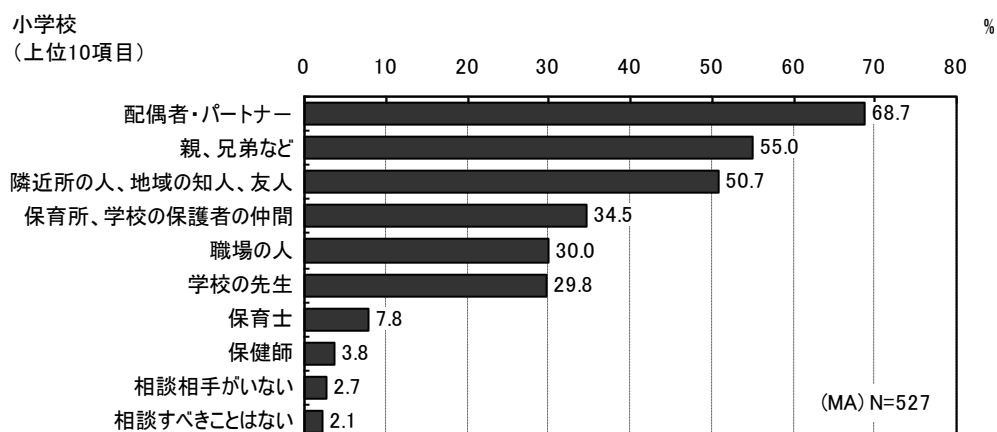
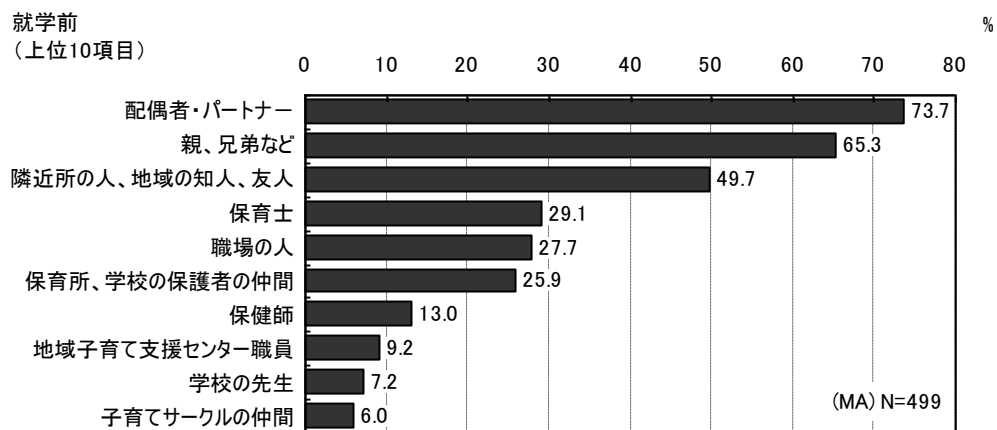
不安や負担に思っていることや悩んでいることについてみると、就学前では「子どもを叱りすぎているような気がする」と45.1%、次いで、「子育てで出費がかさむこと」が41.9%。小学校では「子育てで出費がかさむこと」が49.1%と半数近くで、次いで、「子どもを叱りすぎているような気がする」とが38.9%となっている。

全体でもこの2つが40%を越え、高くなっている。



⑭身近な地域で、子育てに関する悩みや不安をどなたに相談しているか

子育てに関する悩みや不安の相談先についてみると、全体的に「配偶者・パートナー」が最も多く、次いで、「親、兄弟など」、「隣近所の人、地域の知人、友人」が半数を超えている。



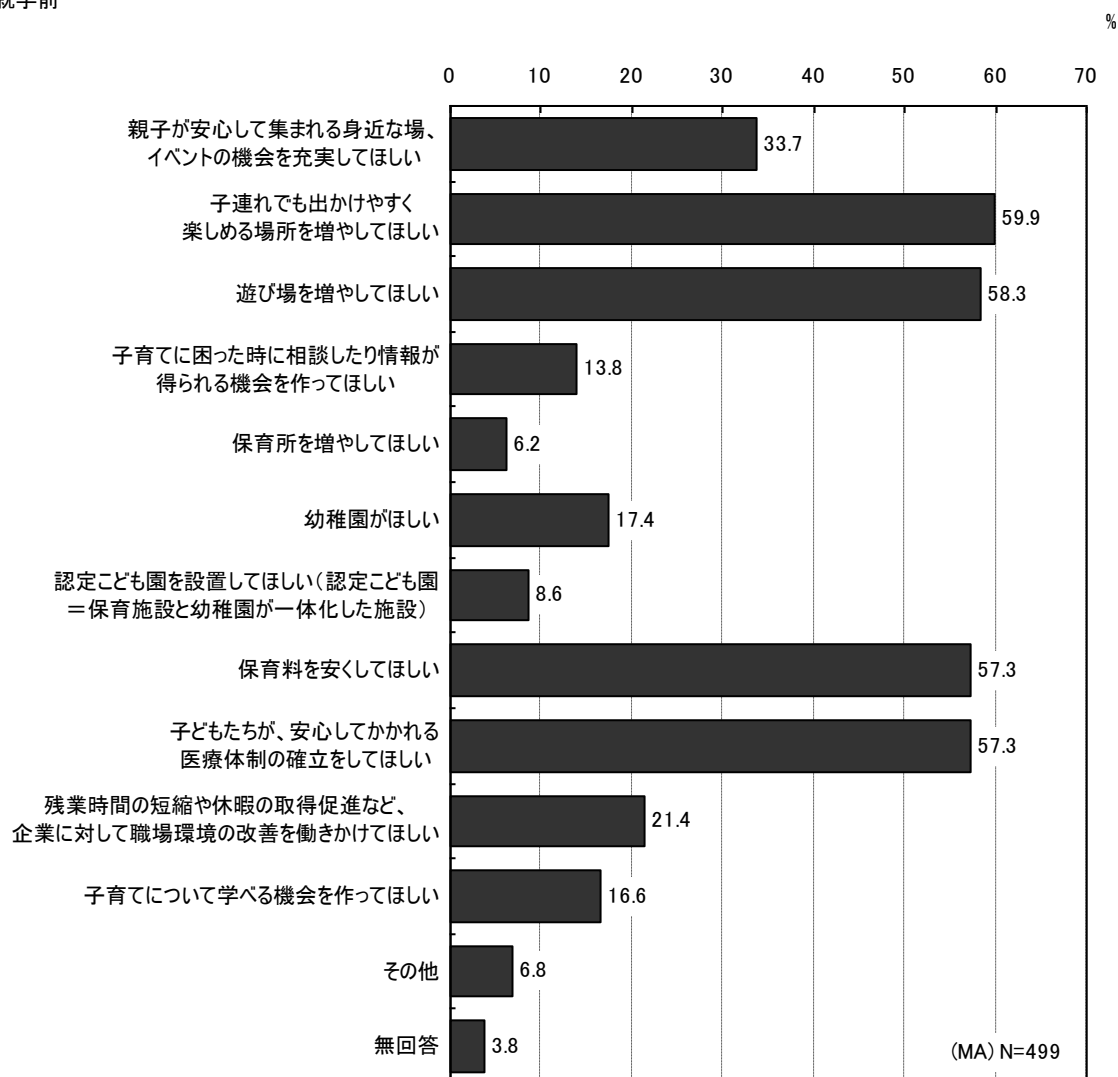
⑮北広島町に対して、今後どのような子育て支援の充実を図ってほしいと期待しているか

どのような子育て支援の充実を図ってほしいかについてみると、就学前では「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が59.9%と最も多く、次いで、「遊び場を増やしてほしい」が58.3%、「保育料を安くしてほしい」「子どもたちが、安心してかけられる医療体制の確立をしてほしい」が57.3%となっている。

小学校では「子どもたちが、安心してかけられる医療体制の確立をしてほしい」が62.4%と最も多く、次いで、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が42.5%、「遊び場を増やしてほしい」が41.7%となっている。

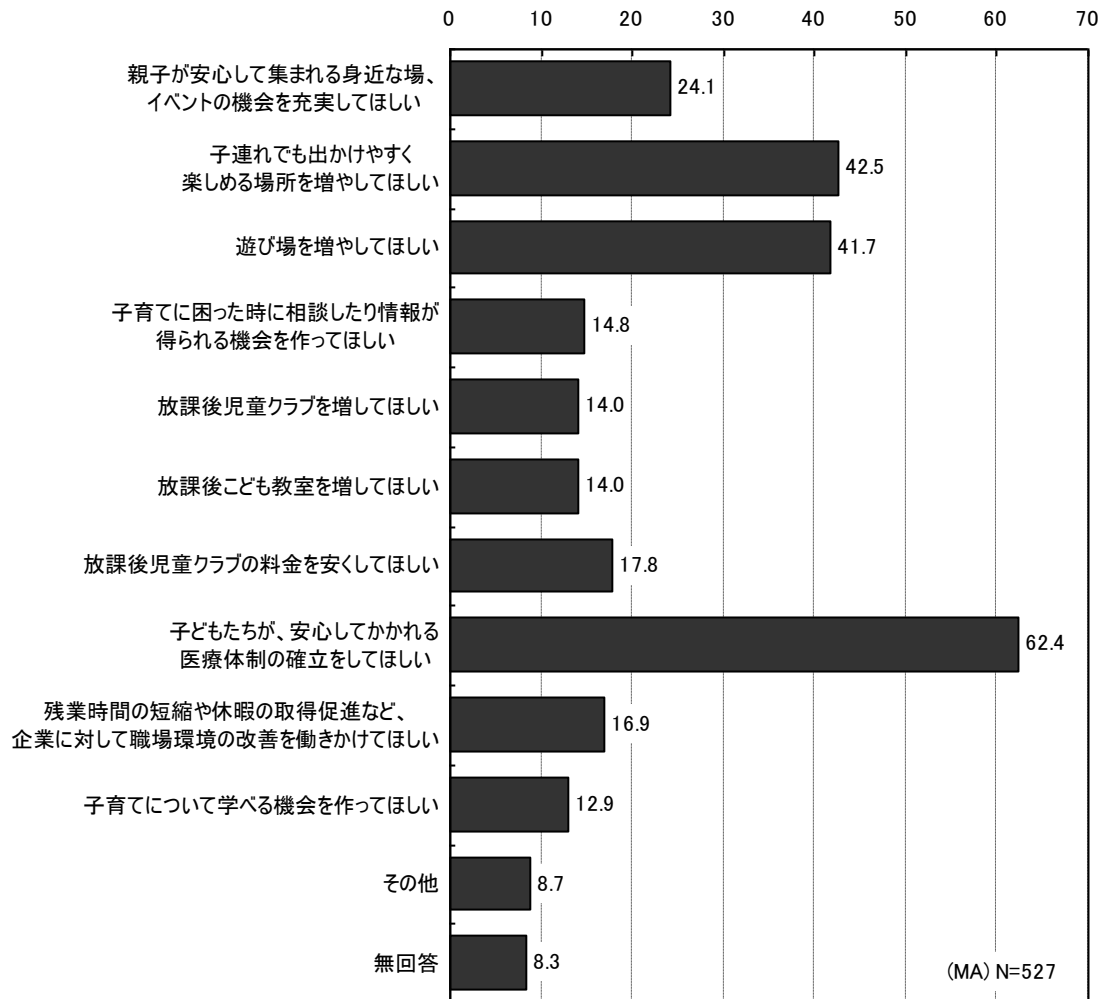
全体でも「子どもたちが、安心してかけられる医療体制の確立をしてほしい」が約6割で最も高くなっている。

就学前



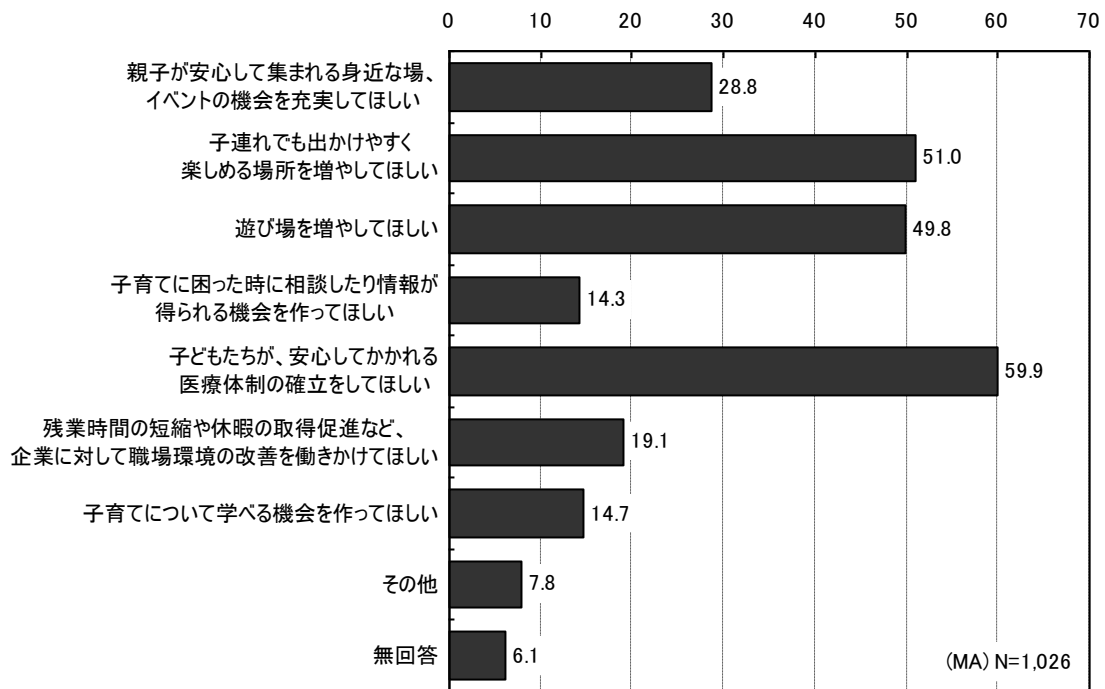
小学校

%



全体
(共通の項目のみ)

%

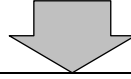


(5) アンケート結果からみる現状と課題

課題1 子育てにおける負担感の軽減

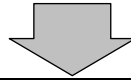
「子育てに不安や負担を感じている」割合が約半数となっています。

子育てに関する悩みについては、「子育てに出費がかさむ」や「叱りすぎているのではないか」が上位にあがっています。



- ・子育て家庭が抱えるさまざまな負担感や不安感を軽減するための環境づくりが必要
- ・子育てに楽しみを感じられるよう、親子のふれあいや対話、家族の協力を促進するとともに、家庭教育を推進することが必要
- ・児童虐待につながる状況の早期発見と対策のためのネットワークの充実が必要

子育てに関する相談相手では、家族や友人などの身近な人が中心となっています。また、学校や保育所のほか、保健師の役割が大きくなっています。子育ての情報の入手先についても親などの家族、友人が上位にあがっており、保育所、学校などの子どもが通う場での役割も大きくなっています。また、テレビや雑誌などのマスメディアからの情報が大きくなっています。一方で、町の関係機関、窓口などの公的機関、地域の相談員などは少数となっています。

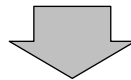


- ・子育てをしている保護者だけではなく、相談相手となる身近な親族・家族や地域への正しい知識の伝達が必要
- ・公的な相談支援窓口等の広報および周知が必要
- ・相談支援の関連団体等の連携などにより、問題解決のための一貫したシステムづくりが必要

課題2 子どもがのびのびと遊べる環境づくり

子どもは遊びを通して社会性や人間関係を学び、生きる力を身に付けていきます。

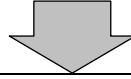
子どもの遊び場については、「遊び場を増やしてほしい」や、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」などに高い回答があり、さらに自由意見でも公園や遊具、雨の日の遊び場などについて多くの意見があがっています。



- ・安全にのびのびと遊べる場所などの確保・充実が必要
- ・同世代、異世代の子どもたちが集まり、交流できる場づくりが必要

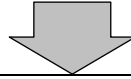
課題3 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の実現

仕事と生活の両立を希望する方が多い傾向にあり、就学前では母親の7割以上が、小学生では8割が就労しています。また、就労していない母親の就労希望のうち、就学前では9割、小学校では8割の方が、就労を希望しています。



- ・ 母親の就労の支援に向けた取り組みが必要
- ・ 多様な働き方に応じた就労支援や雇用促進が必要

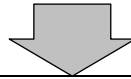
仕事と生活、プライベートの理想をみると、小学生の親では家庭優先にしたい方が約半数、プライベートを優先したい方が約4分の1となっていますが、現実では仕事が6割となっています。また、出産前後に仕事を辞めた方が、仕事が続けられる要因としてあげたのは、職場の環境と保育サービスと職場の両面支援となっています。



- ・ 家庭や自分の時間を持て、リフレッシュできる環境づくりが必要
- ・ 事業所等の協力により、仕事と生活の調和を推進し、子育て支援があたりまえの社会づくりの推進が必要
- ・ 家族全員が役割を分担し、子育てをする社会の実現が必要

課題4 保育サービスの充実

今後希望する保育サービスでは、日曜日などの休日保育に3分の1の回答があったほか、ファミリーサポートセンター、家庭的保育などに2割前後の回答があります。



- ・ サービス業の増加などにより、土曜日、日曜日や休日の出勤などが増加しており、多様な働き方に対応する保育サービスが必要
- ・ ファミリーサポートセンターなど、地域の協働による多様な保育サービスの展開が必要